

大河原城(下伊那郡大鹿村大河原)

南北朝時代、南朝方の宗良親王が大河原城に滞在し、城主であった香坂高宗が世話をしたという。香坂氏は周囲に城砦を築き、親王を迎えて守護したが、更に釜沢の奥である御所平に親王の居館を 移し、東国南朝方の策源地としていた。高宗没後の大河原城については定かではない

郭と堀 小渋川に面して小さい郭があり、その周りを堀だったと思われる部分が取り囲んでいる。断崖部の崩落が進んでいるようで、当時はもっと郭が広がったようだ。だが、城というより 単なる居館であり、更に奥地へ親王を移した意が見て取れる。ただ、香坂氏は周囲に城砦を築いて大河原全体を要害化していた。

城館探訪による

